

新しき年を迎えて

昔は正月になると「『一年の計は元旦にあり』と言うが、貴方は今年一年、何を目標に過ごそうと思つていますか」などと、よく学校の先生や大人の人達に聞かれたものでした。今は寿命が伸びて、還暦



を迎えても、未だ未だ老いをかかえこむには、早い年令なのだそう、70才、80才になつて、習い事やスポーツなど、新しいことに挑戦する方もふえているとききます。

一年のはじまりという節目ですから、健康に関する目標や、〇〇を達成するぞといった目標など、何か心に決して日々を張りきつて過ごしてみるのも、よいかもしれませぬ。

曹洞宗の大事なお経のひとつである「修証義」には、「最勝の善身を徒らいたずらにして露命

人間関係が円滑にいかなくなつたり・・・とこの世の中には、なんと悲しみや苦しみの種が多いことかと驚嘆致します。

そんな時、人は、その試練に打ち勝つ為に、最大限の努力をします。

しかし願つていた結果が出なかつた時、私達はなかなか、その嘆きや悲しみそして怒りやうらみの中から立ち上がることに時間がかかりますし、へたをするとそのまま、力尽きることもあります。

お釈迦さまも、「人生は苦なり」と説かれました。

この世は確かに、苦楽あい半ばする世界であり、苦しみのタネは尽きません。

又、一時の楽しみがあつても、それで苦惱が軽くなるというわけではありません。

菩薩の修行の一つに、忍辱（にんにく）行というのがあります。いかなる辱めや悔りや苦惱をもちらえて、心を動かさないと

を無常の風に任まかすること勿なかれ」ということばがあります。優れたその人生を無益に過ぎ、露のようににはかない命をただ過ぎ去る時に任せて、無為に過ごしてはならないといった意味です。

又、道元禅師の「典座教訓」には「更に何れの時をか待たん（今やらなくて、いつやるのか?）」ということばがあります。今できることを一心に行うことが、仏道になつた行いなのです。

皆さまが一年間、かけがえのない一日一日を精一杯、無事に過ごされますよう、心よりお祈り申し上げます。

試練

人生における喜怒哀楽ほど、私達の生活に潤いを与えたり、悲嘆のどん底におとし入れるものはありません。事業がおもわしくなかつたり、家族の中に病人が出たり、

いう行であります。

我、人共に、強く生き抜いてまいりたいものです。

一言伝導板

○善い人に会つて 教えられ

悪い人に会つて 反省すれば

善悪共に 有難い

○九十九パーセント 正直でも

わずか一パーセントの不正直で

一生を 棒に振ることがある。

○不幸も 一時の姿

恵まれているのも 一時の姿

おごるなよ

月の丸きも ただ一夜

お寺から

○客殿改修工事 始まる

建設委員長杉山精一氏のお力添えもあって客殿の改修工事がいよいよ始まりました。

ネズミの巣窟になつていた押入れや、きしむ廊下、昼なお暗い客殿、不便なトイレ、仕出しやさんが入るのには、少々使い勝手に難のある台所・・と、皆さんが集まつて、何かをしたいと思つた時に、不便を感じる事が多かつたことと思います。

齊藤一雄前住職より依頼されて、当寺の住職となつて、早いもので十年の歳月が過ぎました。

多くの人が集い、檀信徒の心のよりどころとなる寺づくりをめざして、しやにむにやつてきた十年でした。時が熟し、客殿改修という大きな節目を迎えようとしています。暫らく御不便をかけますが、御協力下さいますようお願い致します。

令和六年 2024 年 回表

一周忌	令和五年	2023
三回忌	令和四年	2022
七回忌	平成三十年	2018
十三回忌	平成二十四年	2012
十七回忌	平成二十年	2008
二十三回忌	平成十四年	2002
二十七回忌	平成十年	1998
三十三回忌	平成四年	1992
五十回忌	昭和五十年	1975
百回忌	大正十四年	1925
